・２　地理歴史・公民

学校番号	T1207

令和５年度　　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	現代の世界史　改訂版　（山川出版）						
副教材等	標準高等地図　（帝国書院）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界の国々が現代に至るまでどのような歴史を歩んできたのかを学習します。

・歴史的な事象(できごと)には因果関係があります。「なぜ？」という気持ちを大切にして授業に臨みましょう。

・細かな人名や法律の名称などを暗記するのではなく、歴史の流れを理解することを重視します。

２ 学習の到達目標

・世界史における近現代史の展開を諸資料を活用し、地理的条件や日本の歴史と関連付け、歴史的思考力を培うことができる。
・国際社会の現代の諸課題を近現代史と結びつけ、歴史的観点から考察することができる。
・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・出席状況 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界史へのいざない	日本列島の中の世界の歴史	○	○			a:日本語や日本文化と諸外国との関わりや、地理的環境が歴史に与える影響について関心を持つ。 b:日本語や日本文化に見られる諸外国の歴史的影響などを多角的に考察している。	・出席状況 ・ﾜｰｸｼｰﾄ ・授業内での発言
前期	世界の一体化と日本	諸地域世界の特質	○			○	a:アジアやヨーロッパなどの諸地域の歴史がそれぞれ互いにどのように影響しているのかということに関心を持つことができる。 b:大航海時代や産業革命など、世界史上の大きな転換点について、その事象がどのような意味を持ったかを多角的に考察することができる。 c:大航海時代や産業革命など、世界史上の大きな転換点についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d:世界の一体化と日本について理解し、身に付けている。	・出席状況 ・ﾜｰｸｼｰﾄ ・授業内での発言
前期	世界の一体化と日本	大航海時代		○	○			
前期	世界の一体化と日本	アジア諸国の繁栄		○		○		
前期	世界の一体化と日本	近世ヨーロッパの成長		○		○		
前期	世界の一体化と日本	近代の欧米社会	○		○			
後期	世界の一体化と日本	ヨーロッパの進出とアジア	○	○				
後期	現代世界と日本	現代社会の特徴	○		○		a:20世紀の世界の社会的特色(社会構造や文化など)について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b:帝国主義時代やそれに伴うアジアでの民族運動、またそれ以降の西洋社会とアジア社会の関係について多角的な考察することができる。 c:20世紀の世界の社会的特色や冷戦の構造について諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d:20世紀以降の世界と日本のかかわりについて理解し、身に付けている。	・出席状況 ・ﾜｰｸｼｰﾄ ・授業内での発言
後期	現代世界と日本	帝国主義とアジアの民族運動		○		○		
後期	現代世界と日本	二つの世界大戦	○			○		
後期	現代世界と日本	冷戦の時代		○	○			
後期	現代世界と日本	グローバル化する世界	○	○				
後期	現代世界と日本	持続可能な社会への展望		○	○			

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現
c：資料活用の技能　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。